



特定非営利活動法人

おもしろ科学たんけん工房

2006年7月1日発行

たんけん通信 第16号

“おもしろ科学体験塾”

9月～12月 4ヶ月の予定

予定表 変更する場合がありますので、参加申し込みは募集のチラシや、ホームページの案内を見て行ってください。

月日	開催場所	テーマ
8/12	藤沢 新林公園	セミのぬげから調査
9/02	アートフォーラム	シャボン玉とスライム
9/09	柏陽高校	ジェットコースター
9/09	鵜沼中学	ヘリコプター
9/16	※こども科学館	にじ色の涙
9/23	湘南台高校	ヘリコプター
9/23	フォーラム(戸塚)	食べ物の科学あそび
9/30	永野小学校	ゲジゲジ UFO
10/7	アートフォーラム	食べ物の科学あそび
10/14	鵜沼中学	磁石と電気のふしぎ；モーター
10/14	柏陽高校	にじ色の涙
10/21	湘南台高校	電子サイコロ
10/21	永野小学校	風向計(切り出しナイフの使い方)
10/28	※こども科学館	水をキレイにする大実験
10/28	フォーラム(戸塚)	太陽熱で回る風車
11/04	アートフォーラム	磁石と電気のふしぎ；モーター
11/11	鵜沼中学	テクテクザウルス
11/11	湘南台高校	ヘロンの噴水
11/18	柏陽高校	マルチポストコーブ
11/18	永野小学校	電子サイコロ
11/25	※こども科学館	IC ラジオの製作-2
11/25	フォーラム(戸塚)	テクテクザウルスを作ろう
12/02	アートフォーラム	七色の炎のキャンドル
12/09	鵜沼中学	信号機で回路の勉強
12/09	柏陽高校	電子サイコロ
12/16	湘南台高校	IC ラジオの製作
12/16	永野小学校	空気の重さ、圧力のふしぎ
12/23	※こども科学館	シャボン玉とスライム
12/23	フォーラム(戸塚)	風向計(切り出しナイフの使い方)

※ 印の教室の申し込みは[横浜こども科学館]へ

\* フォーラム=男女共同参画センター横浜(戸塚)

\* アートフォーラム=男女共同参画センター横浜北(あざみ野)

科学体験活動推進スタッフ養成研修

第1期インストラクター研修がスタート

横浜市との協働事業として、今年度の第1期研修が始まりました。定員30名の募集にたいし43名の応募がありましたが、申し込み後のキャンセルも多く結局、受講参加者は27名でスタートしました。

現場実習オリエンテーション: 6月17日(土)

アートフォーラムあざみ野で実施

実習は6月下旬～9月末まで左記会場で

集合研修: アートフォーラムあざみ野で実施

第1日 : 7月1日(土) 第2日: 8月5日(土)

第3日 : 8月26日(土)



現場実習オリエンテーション風景  
6月17日 アートフォーラムあざみ野  
2階 セミナールームで

平成19年度

横浜市との協働モデル事業継続を申請

おもしろ科学たんけん工房は、6月27日横浜市協働モデル事業として、科学体験活動推進スタッフ発掘・養成事業の継続申請を横浜市に行いました。

過去2年間の経験をふまえ、

一層効果的な方法を提案。

新たに、横浜市の地区センターの中に芽生えつつある動き(科学体験活動推進スタッフ養成事業を地区センターの自主事業でやろうとする動き)とのタイアップや支援活動を考慮に入れた内容で、計画を提出しました。



## 伊藤 昇さん

A1: 1942年長野県生まれ。

電気会社において社内製造工程の省力化、自動化の企画およびそれに関する機器の設計を担当。その後他社に移り、NC工作機械、強電関係の保守・メンテに従事。

A2: 定年退職し時間が取れるようになった事と、身近にいる子供たちがバーチャルゲームに夢中になっているのを見て自身の子供のころを思い出し、この子供たちにも現実的、自然的な身近な現象にも興味を持ってもらいたく参加しました。しかし最近再び仕事に携わるようになり時間が取れなくなりましたが出来る範囲で参加する予定です

A3: 場所、費用、安全等の問題があるため、身近なテーマで、興味と疑問を参加した多くの子供たちに湧かせるような手法で行うこと。

A4: デジカメと三次元CAD。どちらも始めたばかりで三次元CADは、頭の体操としてのしんでいます。

A5: 何事にも疑問を持ってほしいということです。そこから全ての発想が生まれます。たんけん工房に参加され身近なことにいろいろな疑問をもつ習慣がつくようになれば良いと思います。

A6: インストラクター養成講座および実習に参加し、いくつかのテーマに接し感じたことは、おもしろ科学に相応しいテーマとその内容が非常に良く練られているということです。関係者の熱意が感じられました。

## スタッフの プロフィール

## 西屋 陽一 さん



A1: 1947年兵庫県で生まれる。

以後、大阪府、愛知県、東京都と転居

1971年より神奈川県に居住し、小学校教員を勤める。

A2: 仕事をやめた後、

- ・ボランティア活動がしたい。
- ・ものいじりが好き。
- ・青少年育成協会からパンフレットが届いた。

ということが重なり、参加することにした。

A3: ものをいじったり、作ったりすることを子どもとともにやって生きたい。

A4: 46歳からスキーを始め、年2~3回出かけることを楽しみにしている。

A5: 自然や機械・道具に触れて、自分が何かすることで、何ができたり、分かったりすることを楽しんでほしい。

- Q1 生まれた年と、簡単な略歴を教えてください。
- Q2 たんけん工房に参加するようになったいきさつと、動機を簡単に説明してください。
- Q3 たんけん工房でやってみたいことはどんなことですか 具体的なテーマでも、夢のイメージでも。
- Q4 趣味や道楽は?
- Q5 子どもたちに ぜひすすめてほしいことはなんですか?
- Q6 その他付け加えたいことがあれば、ご自由にひとこと。



## 田中政治(まさはる)さん

A1: 37年に神奈川県川崎市大師にて出生。

工業高校卒業後電子部品製造会社に勤め、70年に地方工場に出向、畑違いの総務、経理に従事。98年に本社復帰後退任。現在は年金生活。

A2: かつて日本は「技術大国日本」といわれた時代があった。75年代後半から80年代にかけて企業は(特に製造業は)安い賃金を求め生産拠点を海外(台湾、韓国、タイ、マレーシア等)に移した。この時点で、特に生産技術は海外に流出し、空洞化が始まった。物づくり日本を再構築するためにも、今の児童や生徒たちに、物作りの楽しさ、科学のおもしろさを知ってもらいたい。

A3: ゴムひもの動力で動く昔タイプの木造船、蒸気で回転する首振りクランクピストン、蒸気タービン等を作ってみよう。

A4: 魚釣り、野山の散策等

(但し今は体調を崩し休止中)

A5: 私どもが子どもの頃、戦後のなにもない中で自分たちで遊びを考え、物を作ったものだ。自然とナイフやノコギリ、カンナ等の使い方を覚えたものだ。今の子ども達にもこの様な機会を作ってやりたい。

(予定の方の原稿が間に合わなかったため、安田代表のプロフィールを半分だけ、掲載させていただきます。)

## 安田光一さん その1



A1: 1933年東京羽田生まれ、少年時代から結婚するまでは藤沢市で育ちました。田んぼや畑がまだいっぱいあり、とんぼ釣りや、早朝の草刈りが体験できた時代でした。経済学部卒ですが、当時技術系でなければ知らない中小企業だった東京通信工業(後のソニー)に1958年入社、事務系のあらゆる職種を経験する中で、何がほんとうに大切か?を学びました。技術系だけでなく事務系の仕事でも常に創造的であることが尊重される企業でした。最後に学校法人の事務局で、学校運営の仕事をしていましたが、日本の学校制度や教育のあり方について、いろいろ考えさせられる経験をしました。そのことが、後にたんけん工房を始め一つの引き金になったともいえます。(次号に続く)

第2面～4面には、スタッフのプロフィールを紹介しております。(今号は10名を掲載しました。)

歳を重ねただけで人は老いない。夢を失ったときはじめて老いる。(サムエル・ウルマン 新井満 訳より)



### 山口 晃さん (あきら)

A1: 1947年横浜生まれ。横浜国大教育学部卒業。建築関係の会社にて新工法、新製品の研究開発に10年あまり従事した後特許事務所に移る。事務所3ヶ所で通算23年勤務。現在は在宅にて、特許関係の仕事をしています。

A2: 定年を間近に控え、退職後の“生き甲斐”を模索中、2005年10月の当工房のインストラクター養成講座の開催を知り受講しました。他にボランティア活動等いくつか新しいことに挑戦したうちで、当工房の活動に最も興味を惹かれました。

- A3: ①子ども達に理科学習のおもしろさを伝えたい。  
 ②自分の生活を、生き甲斐が感じられる充実したものにした  
 い。  
 ③工房活動の持ちネタを増やしたい。  
 ④新しいアイテムを開発・完成させたい。

A4: 旅行、ドライブ、軽登山、自然観察(特に野草、樹木観察)、料理、油絵、海釣り

A5: 毎日の生活の中にある「不思議」に興味を持ち、それを追究、解明しようとする姿勢を身につけてほしい。  
 ハサミ、ナイフ等の道具の正しい使い方を覚え、工作の楽しさを知ってほしい。

### 益田邦子さん



- A1: 1955年生まれ。横浜市在住。  
 ベネッセの進研ゼミで、添削指導を20年ほど続けています。  
 A2: おもしろ科学たんけん工房の広報を見て、興味を持ち入会しました。  
 A3: 地域の子供たちにおもしろ科学の体験を伝えられたらと思っています。  
 A4: 映画鑑賞。読書。  
 A5: 不思議と思う気持ちを持ちつづけてほしいです。

### 中山 登史男 さん



- A1: 1939年、東京都品川区西大井(旧金子町)で生まれ、福島3年、東京で25年育ち、以後横浜(一時山口)在住  
 略歴: 小さいときものを作る理科が好き。化学の高校を出て、一時期化学会社に就職。理科系の大学に進み物理を学びそのまま大学に残り、工学部機械工学・物質環境工学科で機械の設計、製図、など、専門は材料加工(ものづくり)など、2004年定年退職。  
 A2: 定年後、何をすべきか迷い、このままボケーとしていても、本当にぼけてきそうなので、人の薦めで男声合唱を始め、タウンニュースを見ていたところ、「おもしろ科学たんけん工房」の募集が目に入り、子供達と一緒にものを作ったり、理科の勉強したり、面白そうだなと思ったのが動機。(理科離れの時代、理科の面白さも知ってもらいたい)  
 A3: 先ずは現在あるテーマを出来ればすべて(自分の好まないものでも)、マスターしようと思ってます。  
 それから新しいものにチャレンジできたらな、と思っているが、そこはなかなか。  
 A4: 今、男声コーラスを楽しんでいる。  
 また、地震で崩壊した棚田や若年農業者の減少で、米作や野菜作りの後継者不足で、棚田を持つ地方の環境と景観が失われつつある。その保全のサポートをしている。  
 A5: 堀江もんでないけれど、最近子供達にも経営学ならぬ金銭学(ようは金儲け方)を学ばせようとする気運がある。  
 地味なものづくりこそ日本のお家芸。ものを作って、何で自動車は動くんだろう、どうして飛行機浮いてるんだろう、花は何故咲くなど、疑問を持って不思議がって欲しい  
 A6: 焼ものづくり、自然の木や、草、花などで布を染める染め物なども面白いかも知れない。上染や、焼き方により色が七変化に変化する。また木綿、絹、化繊などで染まらないもの、染まり方が違うなど。

### 高橋 玲子 さん



- A1: 1961年生まれ。  
 出身: 東京都  
 某大学外国語学部英語学科卒 英語教師免許有り  
 A2: 小2の息子と一緒に楽しめればと思い参加させて頂きましたが、会場が遠かったり、都合が悪かったりして、なかなか参加できていません。  
 A3: 理科系の知識は全くないので、今のテーマを全部分かる様になり、いつの日か、インストラクターができれば・・・と  
 思っております。  
 A4: 旅行(16日にアメリカから帰って来ました)、水泳、手芸(タイルクラフト、ビーズなど)  
 A5: ・色々なことに挑戦して欲しい  
 ・自分の興味あることを追求して欲しい  
 ・世界に目を向けて欲しい

米を作るのではない。田を作るのだ。  
 (前田俊彦「瓢鰻亭通信」より)

<スタッフのプロフィール (続き)>



うめもと  
**榎本 貢三 さん**

A1: 1950年生まれ。東京の高校卒、  
大学が神奈川県です。

A2: たんけん工房の趣旨である科学の面白さを伝える。  
その際に、知識より動機付け、学ぶ心態度を学ばせるなど  
自学自習の考え方に共鳴したこと。

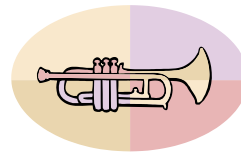
また、自分でも楽しく科学を学びたいと思ったことが参加し  
た主な動機です。

A3: 参加して日が浅く、それぞれ自学自習の足手まといで、  
ベテランの方々に迷惑をかけています。毎回の現場実習や自  
由実習で少しでも進歩すれば良しとしています。進歩しなくて  
も次回があるとくじけない様にも。

何年か先に、アイテムが提案できればと、夢ですけど思う  
ことがあります。もちろん、子供たちのよきサポーターある  
いはアドバイザーになれればとも思っています。

A4: たまにですがテニス仲間と、テニスの後ワイワイ言い  
ながらお酒を飲むこと。好む時代に偏向性がありますが、日本  
の歴史に関係する本を読むことが好きです。 右上に続く

A5: 科学は身近な現象で、面白いことが沢山あります。その  
楽しさを自分で発見してほしいと思います。



**田中優子さん**

A1: 1954年 神奈川県平塚市  
生まれ。高校卒業まで

平塚で育ち 東京の短大を出て 広告会社に 5年間勤務。  
結婚後 主人の仕事の関係で 茨城県東海村に 5年間住み  
その後 横浜に転居し20年経ちます。 専業主婦の期間が  
長く 理科が特に好きだった訳でもないの お役に立つか  
どうか?

A2: 横浜市の広報で知り 研修に参加。自然観察の活動の  
方に興味がありましたが 研修で ものを作る楽しさも知り  
ました。

A4: 庭いじり。 鎌倉彫り。 音楽を聴く、絵を見る、本を読  
む。旅行も好きです。

昨年は 子供も大きくなったので 夫婦でウィーンへ行って  
来ました。 音楽を聴き 絵や建築を見てきました。

A5: 自分の手で 物を作ること。 自分で考えること。

2005年度 収支決算の概要

	科 目	金額(千円)	内訳金額
収入	会費・入会金収入	631	
	正会員会費		342
	賛助会員サポータ		289
	事業収入	1,776	
	科学塾参加費		1,561
	育成事業参加費		215
	寄付金	404	
	企業からの寄付		0
	個人寄付		404
	助成金・補助金収入	1,096	
受取利息雑収入			
当期収入小計	3,907		
その他収入	1,621		
前期繰越金		1,621	
	収入合計	5,528	
支出	事業費支出	2,945	
	1 科学塾		1,703
	2 普及啓発事業		107
	3 ネットワーク		48
	4 発掘養成事業		1,087
	管理費支出	403	
当期支出合計	3,348		
当期収支差額	(559)		
	次期繰越収支差額	2,180	
(非現金支出)前受け金振替			
	支出合計	5,528	

2006年度 収支予算の概要

	科 目	金額(千円)	内訳金額
収入	会費・入会金収入	915	
	正会員会費		555
	賛助会員サポータ		360
	事業収入	1,709	
	科学塾参加費等		1,409
	育成事業参加費		300
	寄付金	500	
	企業からの寄付		100
	個人寄付		400
	助成金・補助金収入	1,350	
雑収入	10		
当期収入小計	4,484		
その他収入	2,180		
前期繰越収支差額		2,180	
	収入合計	6,664	
支出	事業費支出	4038	
	1 科学塾		2,464
	2 普及啓発活動		240
	3 ネットワーク		180
	4 ボランティア発掘養成		1,154
	管理費支出	415	
予備費	50		
当期支出合計	4,503		
当期収支差額	(▲19)		
	次期繰越収支差額	2,162	
	支出合計	6,664	

2005年度に おもしろ科学たんけん工房を  
 支えてくださった方々(各区分内で五十音順:敬称略)

## 有難うございました

2006年度も引き続き  
 ご支援をお願い  
 申し上げます

### ○ 寄付を頂いた方

秋山 矜一
井伊 勝行
岩田 悟

岡 将大
小野 順造
風間 紘二

川口 圭介
桜井 昭信
菅原 健二

12名

林 松生
若林 弘夫
森脇美武

### ○ 会員(正会員、賛助会員、協力会員)で会費のほかに寄付を 頂いた方(会費を2口以上頂いた方も含む)

(26名)

石井 康博
小原 勉
川出 敏一
菊池 誠
木下 和久
木村 貞雄
熊谷 勲

郷 勝哉
古高 實
柴田 憲男
重田 定明
鈴木 節雄
高田 明彦
高橋 五郎

高橋 晴子
高畠 輝
土屋 昌信
畑尾 逸郎
林 靖
水山 エツ子
宮治 資雄

宮武 和也
村田 和代
森島 章伍
安田 光一
山田 敏之

### ○ 賛助会員として会費を納入頂いた方

23名

浅井 多喜子
石岡 忠夫
石田 雄一
榎本 晟
大坪 映子
川畑 有郷

木下 和久
小泉 進
篠田 豊
菅谷 一郎
世良 明
高木 公夫

高橋 梯二
竹内 秀司
成瀬 文英
葉山 峻
星澤 信郎
宮武 和也

向野 暢彦
矢野 通弘
山中 俊作
山村 純二
藤田 昌康
(逝去)

### ○ 協力会員(サポーター)として会費を納入頂いた方

49名

荒関 卓
有馬 正人
安藤 郁弘
飯塚 知子
伊藤伊規子
伊藤 昇
植木 俊二
江原 護
大野美佐子
折戸 淳子
書川 貞夫
川島 耕三
川出 敏一

神作 洋子
神田 章子
熊谷 勲
佐藤 勝栄
佐藤 尹一
澤井 弘子
塩崎 裕子
品田 宰
杉原 京子
妹尾 恵子
高田 秀子
高橋 晴子
高橋 玲子

武田 寿
田中 啓順
田中 政治
田中 優子
徳田 瑞畝
中山登史男
西 健
西田 義隆
西屋 陽一
野津 信子
幡谷 善照
藤島 徹
細木 隆

益田 邦子
松田 武幸
三浦 由紀
水山 エツ子
山川 幸子
山口 晃
山西 良夫
山本 明利
山本 武美
渡辺 智子
田口 光子
(退会)

### ○ 正会員として会費を納入した方

40名

相川 正光
相坂 輝夫
安藤 吉治
石井 康博
石橋 輝夫
岩瀬 宏一
榎本 貢三
小原 勉
川口 浩一
菊池 誠

木村 貞雄
郷 勝哉
古高 實
小松 恵一
重田 定明
柴田 憲男
鈴木 節雄
高田 明彦
高橋 五郎
高畠 輝

滝本 昌彦
土屋 昌信
畑尾 逸郎
林 靖
星野 利雄
松島 克雄
松島 賢一
松本 公成
三澤 昭
宮治 資雄

宮下 盛汪
宮地 俊作
村田 和代
森島 章伍
安田 光一
安田 舜二
山田 敏之
山本 君代
弓手 康史
井下田明禧
(退会)

下記の方々は2006年度 登録なので左記リスト には入っていません	
小林 忠	岩村 幸衛
松尾 年昭	小野 恵嗣
宮丸 哲夫	篠原みゆき
中川 治	高橋 佳子
石川香世子	田島紘一郎
伊藤 理絵	江藤 弥生
今井 裕子	

### ご存知ですか? PR

#### よこはま夢ファンド

横浜市市民活動推進基金

市民活動をみんなで支える  
 基金です。

**税法上の特典があります**

活動に参加できなくても、活動  
 する団体を応援できます

小額の寄付であれば、直接応  
 援する団体に寄付するのが最  
 善ですが大口の寄付だと、税  
 法上の特典を考え、この夢  
 ファンドに寄付すると、  
 (寄付金額-1万円)  
 × あなたの所得税率分  
 の税金が確定申告で戻ってき  
 ます

詳しくは裏面参照  
 または横浜市の  
 Tel 045-671-3682  
 Fax 045-664-0734

### たんけん工房 年会費

種別	一口
正会員	6000円
賛助会員	5000円
協力会員 (サポーター)	3000円

サポーターの会費は登録月に  
 納入し1年間有効です

おもしろ科学たんけん工房  
 の郵便振替振込み口座  
 (口座記号 口座番号)  
 00240=4= 11279  
 (加入者名)  
 おもしろ科学たんけん工房

**財政支援のお願い:**

おもしろ科学たんけん工房が、安定した展開を図るためには、皆様のお力添えが必要です。横浜市との協働による市の補助金も事業経費の1/2補助が原則なので、法人の自己負担能力がなければ受けられません。財政基盤の強化にご支援お願いします。

**賛助会員として**

- ◎ 賛助会員 (=財政支援会員) としての新規ご入会には特別な手続きはありません。郵便振替用紙の通信欄に「**賛助会費** ○口」と書いて、1口以上、お振込みいただければ賛助会員として登録させていただきます。(賛助会費 1口 5000円/年) 賛助会員は年に一度年会費を納入ください

**寄付により**

- ◎ 寄付については特別なきまりはありません。郵便振替用紙の通信欄に「**寄付**」と書いてください。金額・時期は自由です。以前ご寄付くださった方には、ぜひ本年もお願い申し上げます。

**(高額寄付)**

1万円を超える寄付をお考えの方は「横浜市市民活動推進ファンド」への寄付もご検討ください。横浜市への寄付なので、確定申告により、所得控除ができ税金がやすくなる(払った税金が戻る)という特典があります(※)。寄付希望先を「おもしろ科学たんけん工房」としていただくと、直接ではありませんが、おもしろ科学たんけん工房が 別途助成金を申請して、この基金から助成が受けられる仕組みがありますので、間接的に私どもにメリットがあります。

(※) 例えば、所得税率が20%の所得の方が10万円寄付すると

(10万円-1万円)×20%=1万8000円 税金が安くなります。

(つまり82,000円の現金支出で100,000円の寄付)

**正会員・賛助会員の年会費納入時期**

- ◎ 正会員・賛助会員は、2006年度年会費を、7月末日までに振替口座に振り込みくださるようお願い申し上げます。可能ならば、複数口の会費または別途に寄付をお振込みいただくと助かります。

(すでに2006年度会費を納入された方にもこの紙が届きますが、無視してください)

**サポーター(協力会員)の年会費納入時期**

- ◎ サポーターの方は 最初にサポーター登録した月と同じ月に、翌年度も年会費(1口3000円)を振り込むようにしてください。それにより1年間の登録更新となります。

振込み先口座: 口座番号・加入者名など記入済みの用紙を同封しておりますが、紛失した場合などは郵便局にある用紙で、下記にお送りください。

<なお、振込み手数料は 恐縮ですが振込み人にてご負担願います>

振替口座番号 00270-4- 11279 (右詰)  
加入者名 おもしろ科学たんけん工房

2006年7月 (特定非営利活動法人) おもしろ科学たんけん工房  
代表理事 安田 光 一

お問い合わせは TEL/FAX 045-710-2679 安田まで